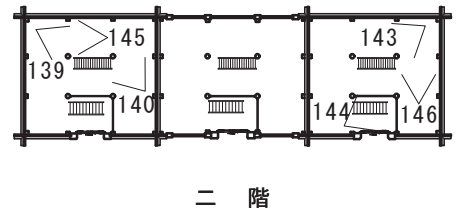
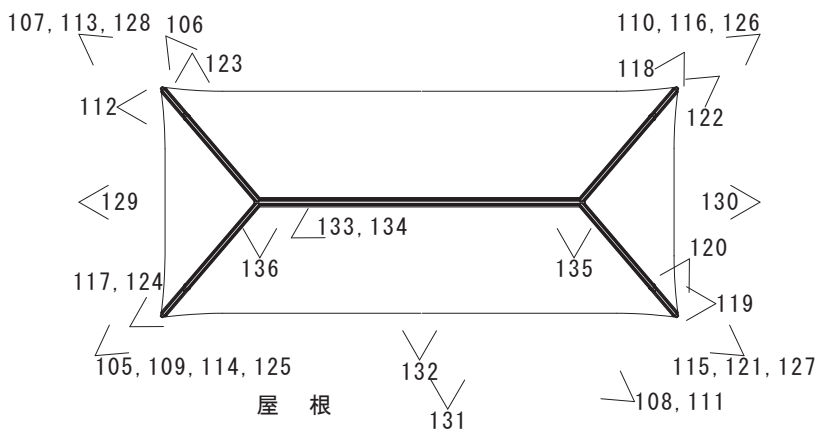
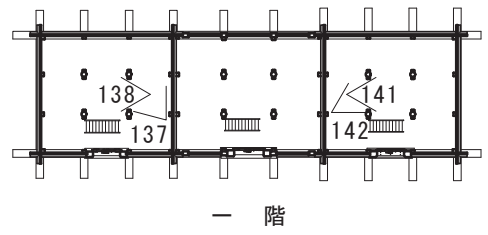
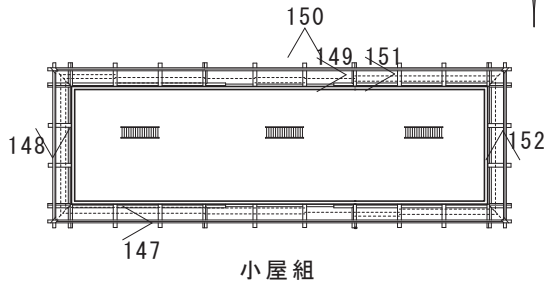
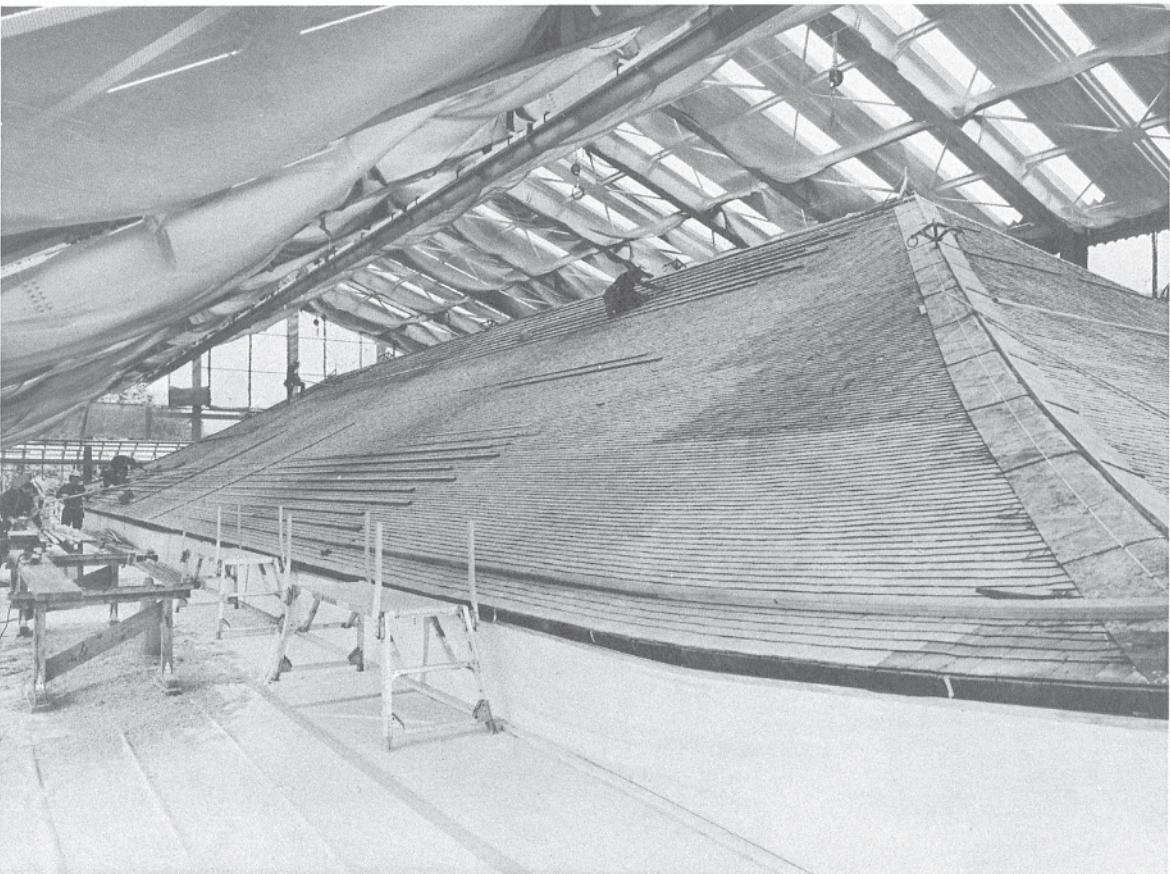


# 四、 組 立

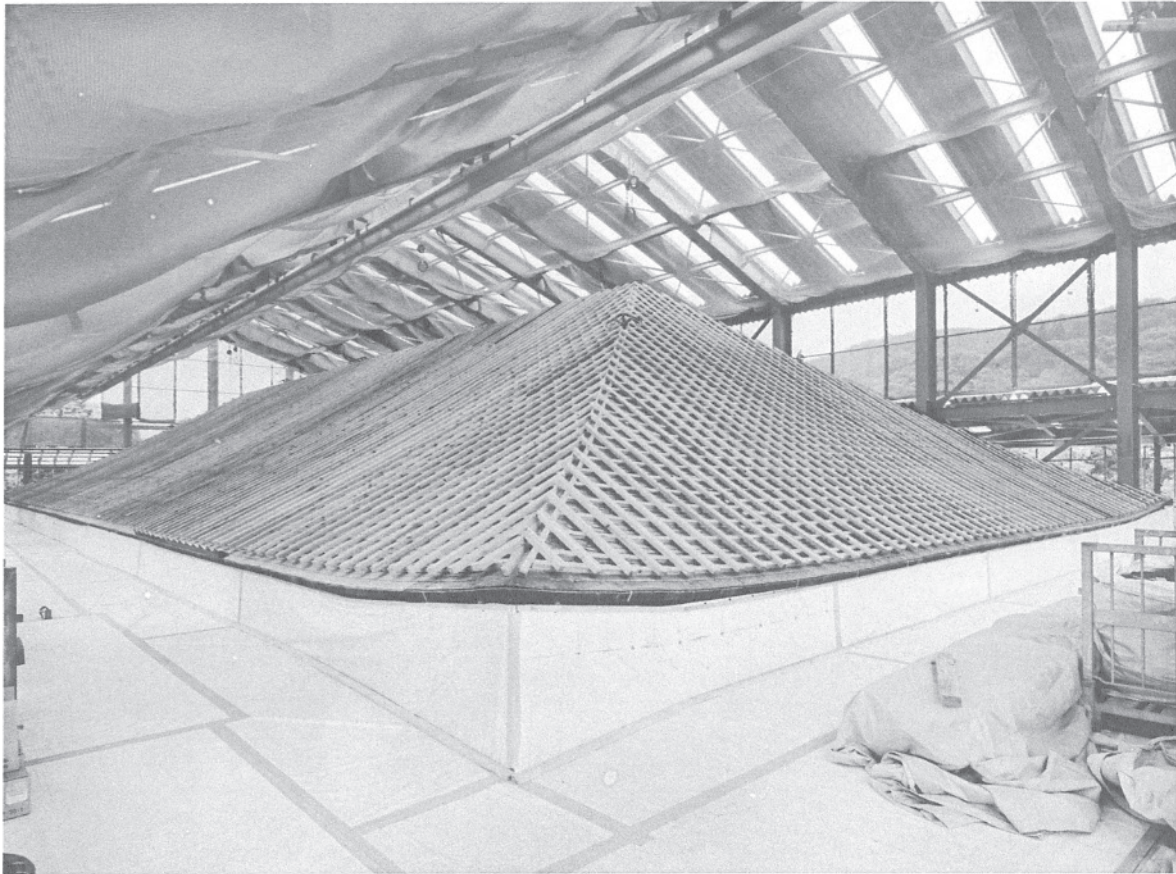




105 南面及び東面の土居葺復旧完了  
東南より見る。南面は再用可能な古い土居葺の板を新しい板と葺き混ぜて施工した。棟には銅板も復旧した。

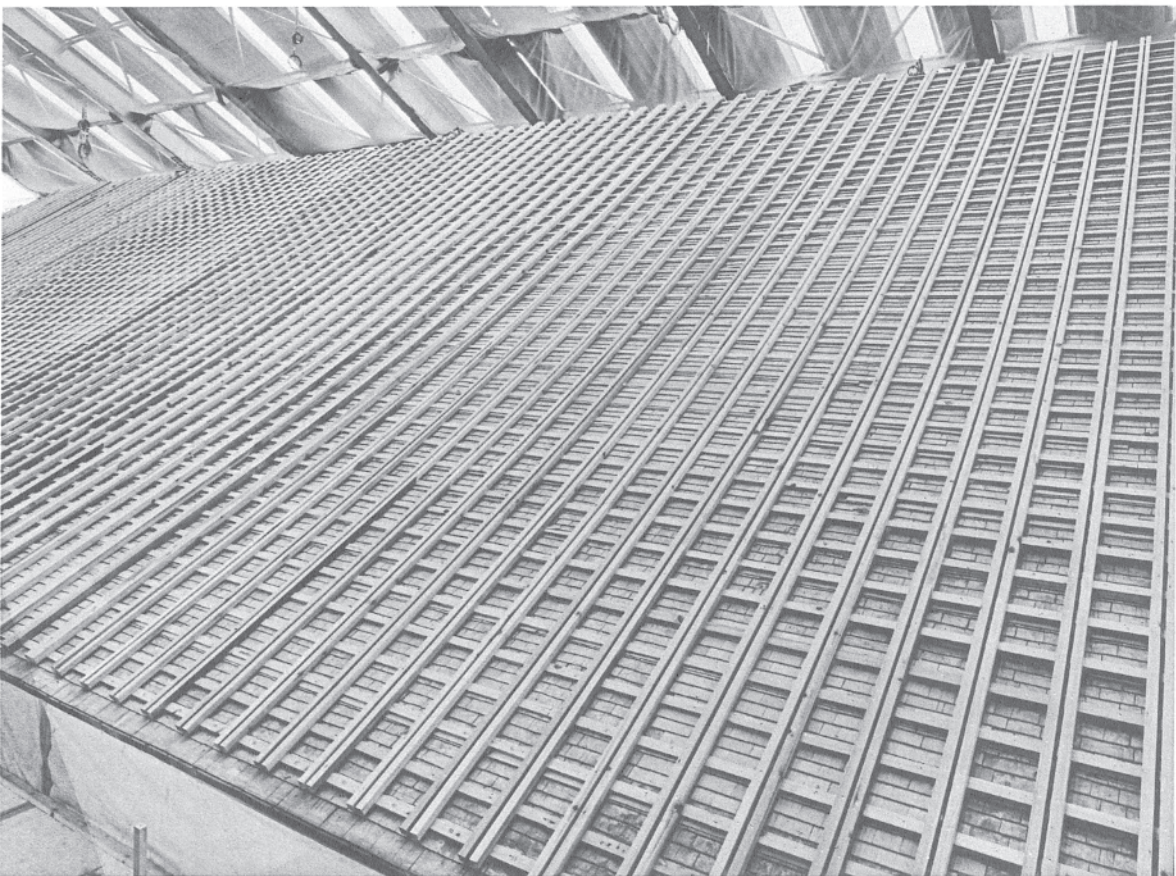


106 西面の瓦棧取り付け施工中  
西南より見る。西面はほとんどの土居葺を取り替えた。土居葺は不陸が残るため、瓦棧で不陸を調整した。



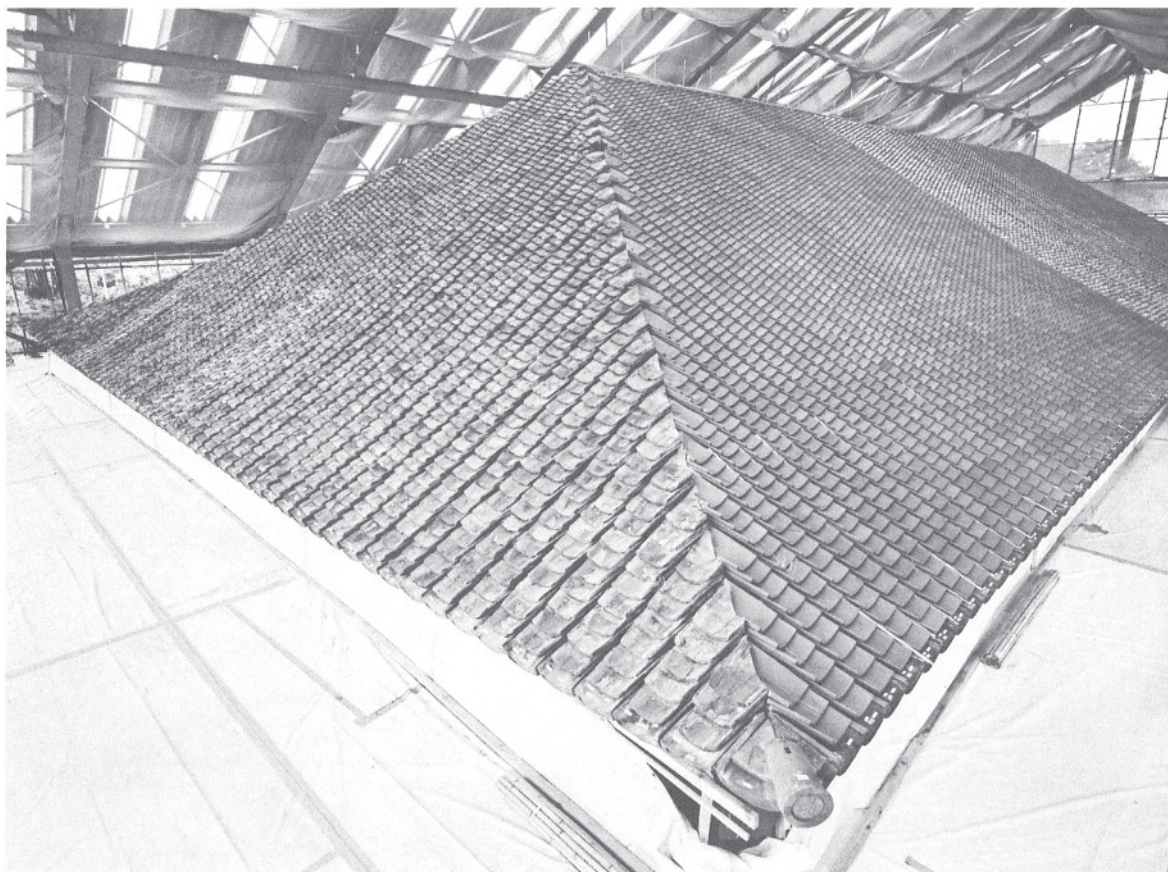
107 南面及び西面の瓦棧取付完了

西南より見る。西面の平瓦は空葺のため豎棧を流す。南面は再用瓦を土葺としたため本来なら豎棧は要らないが、古瓦の転び止めに豎棧を付けた。西面は、豎棧に平瓦を釘止めしたが、南面は釘止めはしていない。



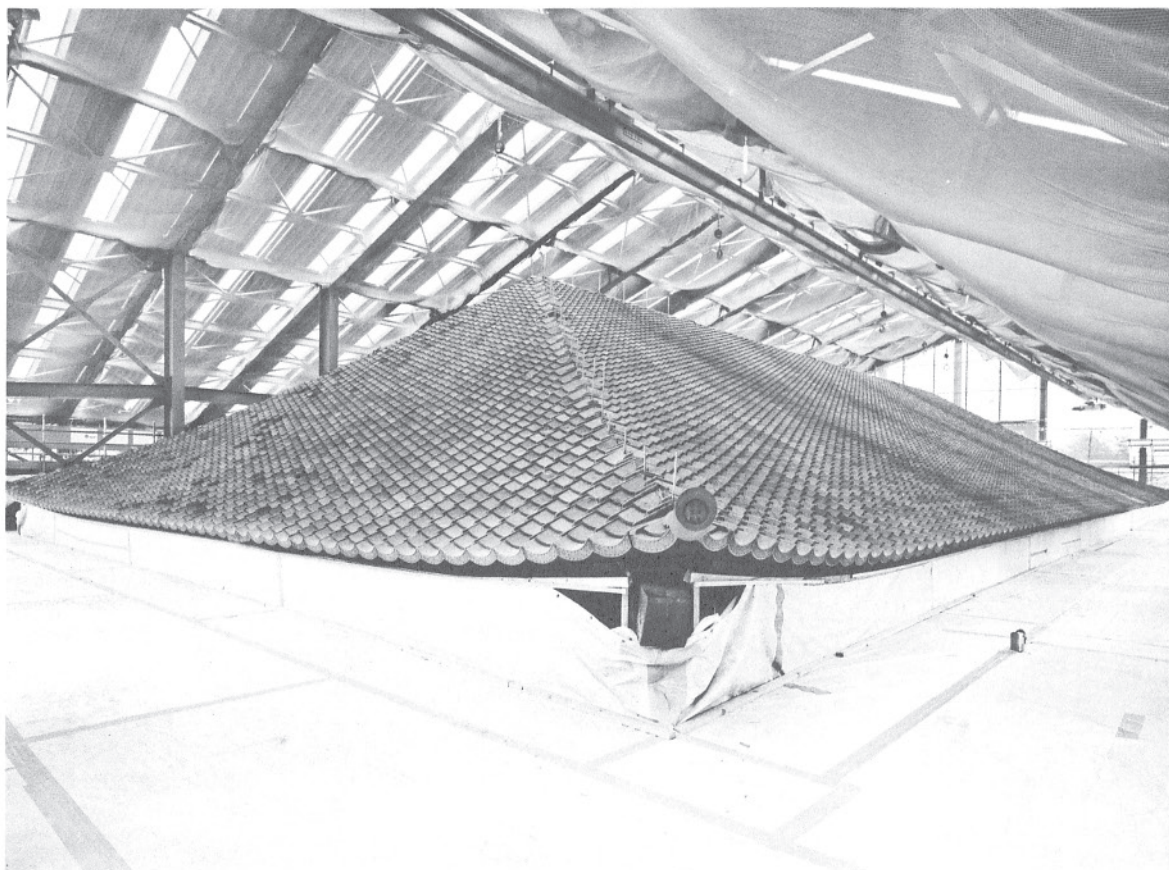
108 東面の瓦棧取り付け完了

東北より見る。軒先から丸桁までは空葺とし、丸桁から棟までは土葺としたが、豎棧は全面に配した。



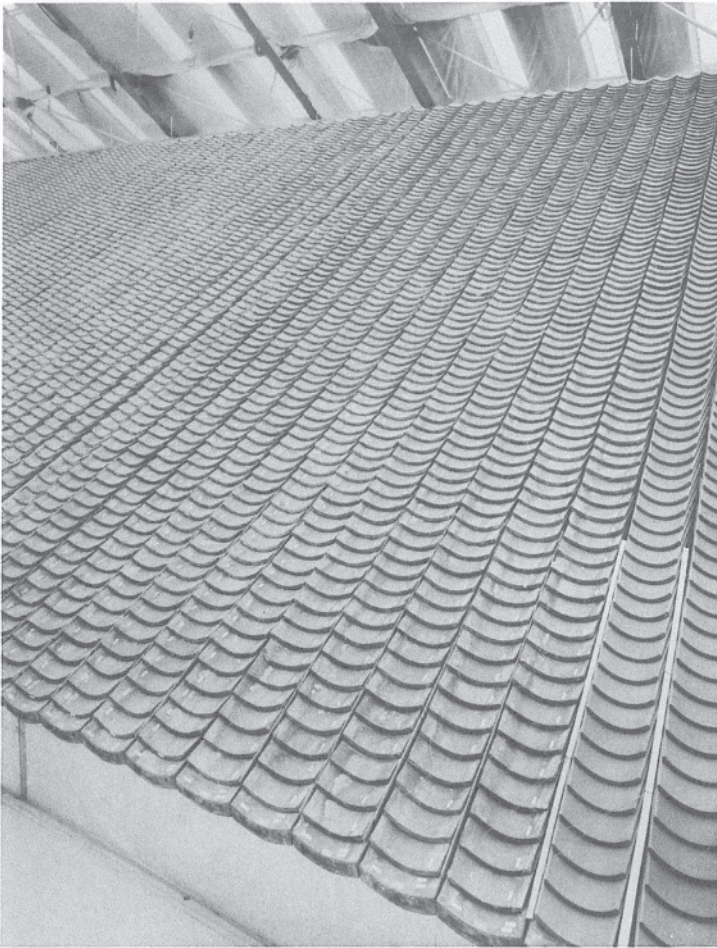
109 南面及び東面の平瓦葺き上げ完了

東南より見る。平瓦は、南面を天平期と鎌倉時代の再用瓦で葺き、天平期の瓦は両脇に用いた。東面は中央に室町時代以降の再用瓦を葺き、両脇は大正期の土練機で土を捏ねて作った補足瓦を葺いた。

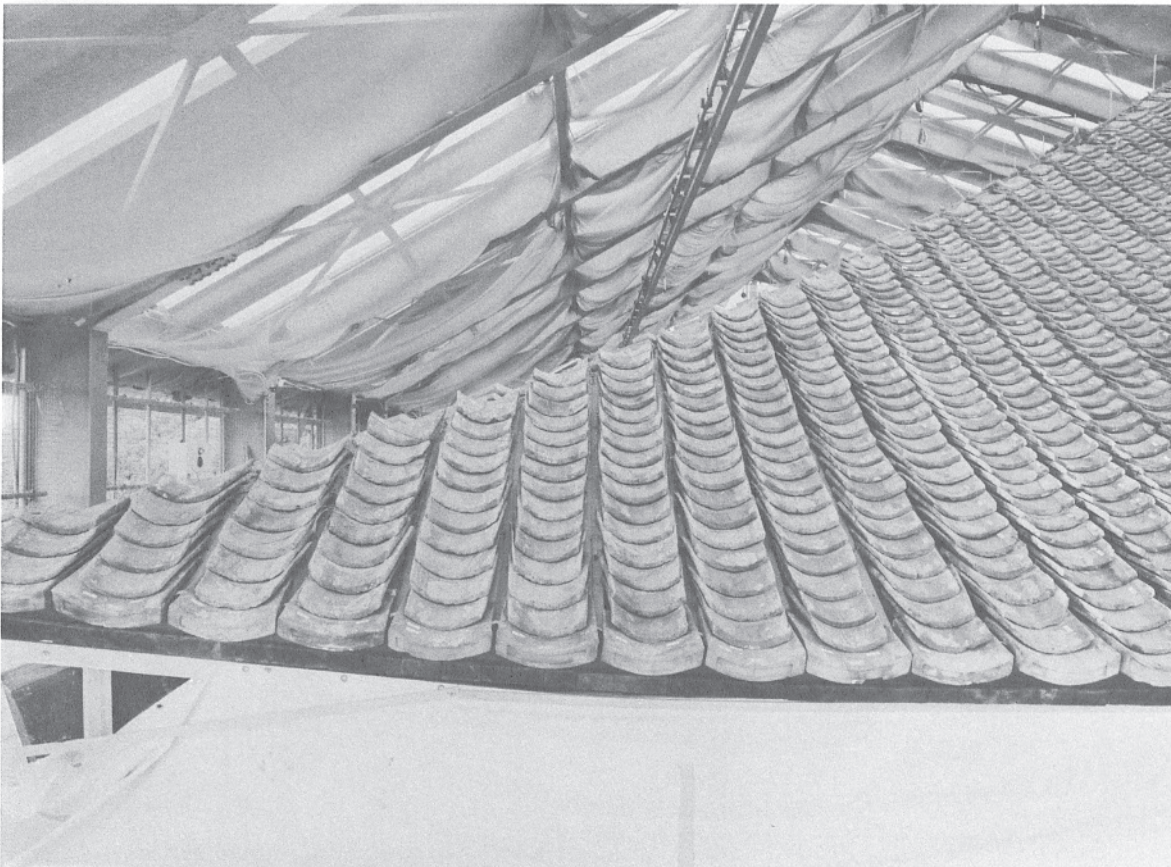


110 北面及び西面の平瓦葺き上げ完了

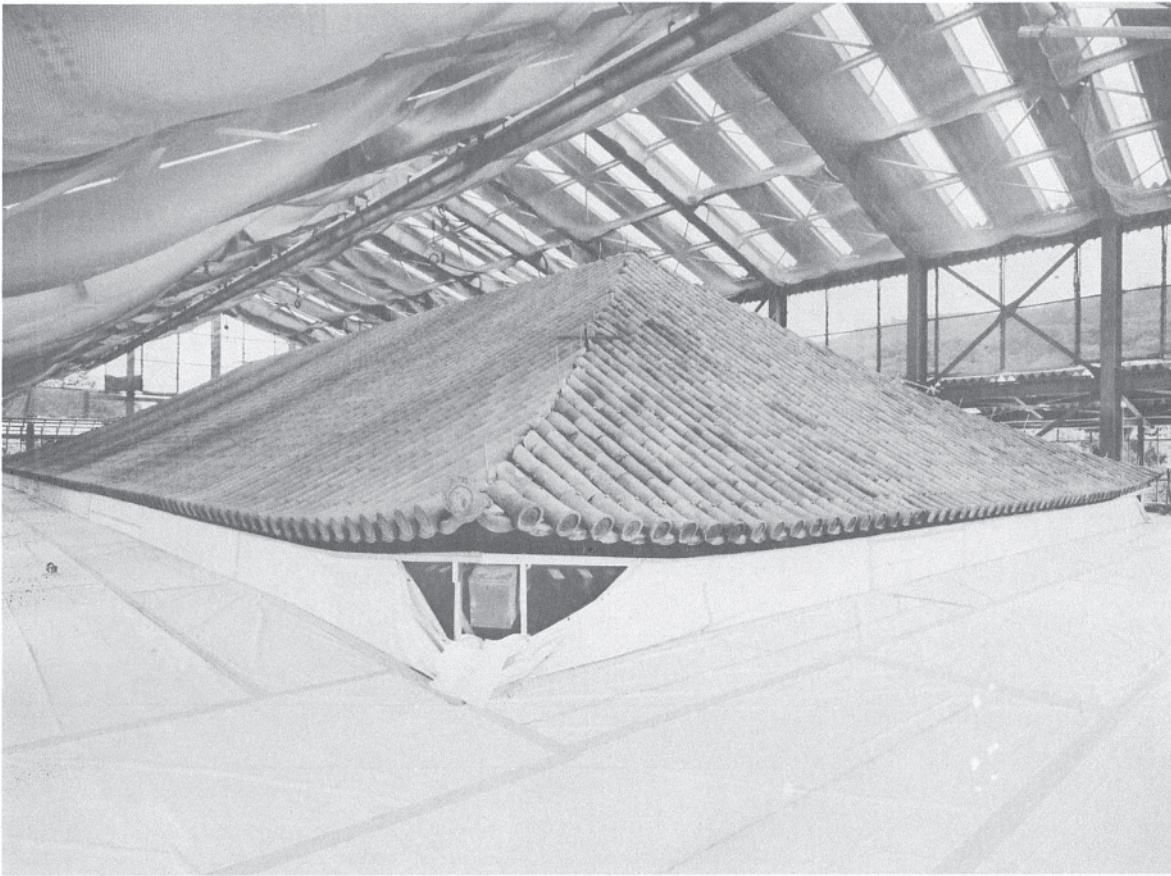
西北より見る。北面及び西面はすべて天平期の瓦に倣って製作した補足瓦で葺いた。平瓦の葺足は痕跡より4寸5分とした。



111 東面の平瓦葺き上げ時の状態  
東北より見る。平瓦の間には、丸瓦を  
葺いた際、葺土が平瓦の間に落ちない  
ように割竹を敷き込んだ。

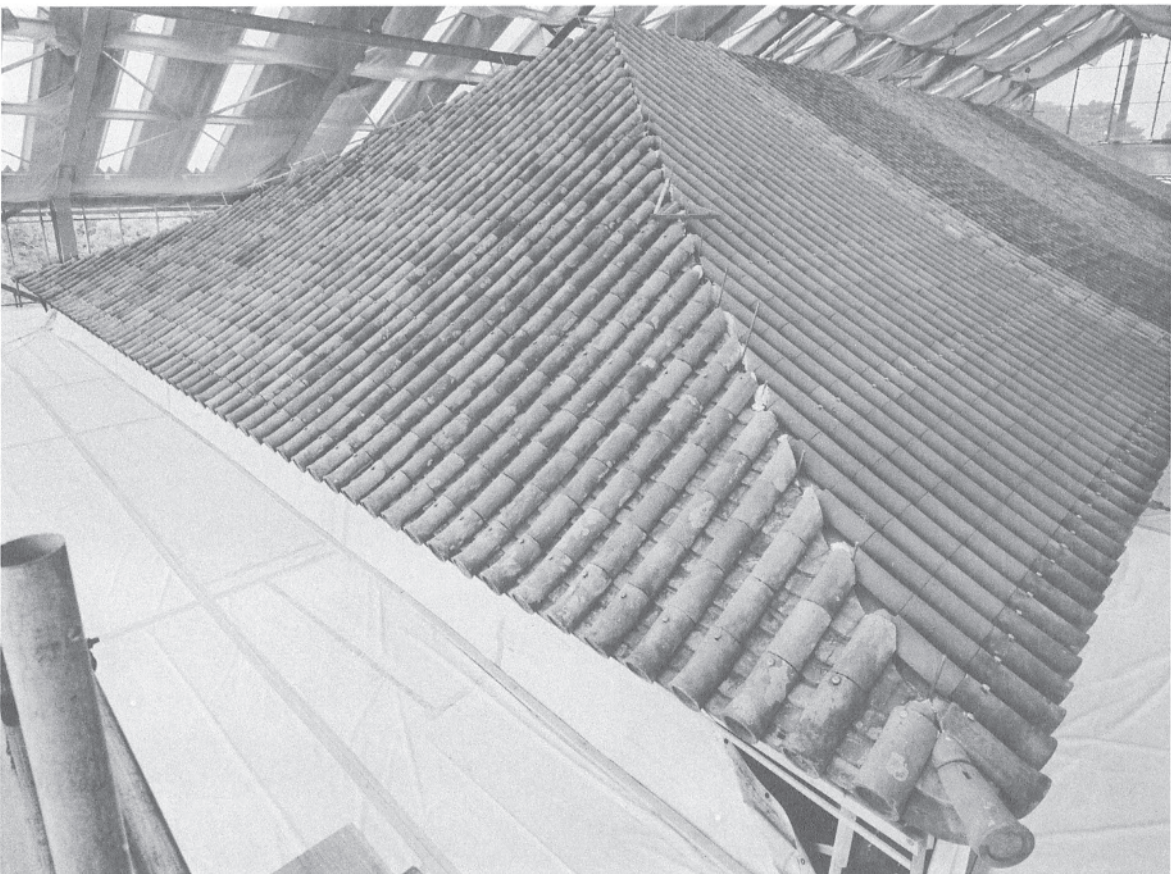


112 南面西寄りの天平期平瓦の平葺状況  
南より見る。天平期の平瓦はおよそ250枚を南面の両脇に再用した。



113 南面及び西面の丸瓦葺き上げ完了

西南より見る。丸瓦は、南面に天平期と鎌倉時代の再用瓦を中心に葺き、西面は現代製法で製作した補足瓦を葺いた。南面は修理前の工法を踏襲し、5本に1本を瓦釘で止め、西面は玉縁に空けた穴に銅線を通して引き付けた。



114 南面及び東面の丸瓦葺き上げ完了

東南より見る。東面の軒瓦はすべて再用瓦とし、丸瓦は中央に再用瓦を集めて葺き上げた。